

石川 朗, 種村留美 (総編集), 長尾 徹, 長野 聖 (責任編集)
15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト
ADL・実習

仙石 泰仁
 (札幌医科大学, 作業療法士)



15 レクチャーシリーズに「ADL・実習」が加わりました。本シリーズは理学療法士・作業療法士の養成教育で利用しやすいように、一般的なカリキュラム2単位に相当する15回の講義に対応できるよう15章に分けて編纂されています。今回の「ADL・実習」は理学療法・作業療法学共通テキストとして発刊され、「運動学」、「臨床運動学」、「運動学実習」に続く第4弾となります。共通テキストは理学療法士・作業療法士の基礎となる重要な科目群であり、多くの養成校で利用できる内容となっています。特に工夫されている点は、各章で実習内容が含まれており、座学だけでなく演習でも活用できる点です。たとえば、第2章の「ADL評価」では、紙上患者さんの状況からFIM評価を行う演習、移乗動作の模擬実習方法を示しBIやFIM評価をさせる演習方法が提示されています。また、第4章の「歩行動作と歩行補助具」では、松葉杖とT字杖での歩行方法や介助方法、平地や斜面、床の環境による違い等を理解できる演習方法が紹介されています。作業療法士の視点からは、第6章「食事動作」における机や椅

子の高さや食具操作に関する実習や利き手交換時の箸操作演習、第8章「排泄動作」のトイレ環境と姿勢との関係についての実習、第12章「自助具」におけるソックスエイド作製演習や爪切りの工夫等、おそらく著者らが長年にわたり講義で工夫されてきたであろう演習内容が紹介されており、学生だけでなく臨床で働くセラピストの卒後教育でも十分有用な内容になっています。

実習以外の内容でも多くの工夫がなされており、新しい視点から講義ができる可能性が感じられます。第1章の「ADL総論」では従来のテキストにあるADL定義の解説等も含まれていますが、関西と関西以外でのエスカレーターの利用方法の違いを紹介しながら、文化の違いによって自立度に差が出る可能性があることや、ICFの環境因子や個人因子について説明も加えられており、理解が深まる工夫がなされています。この内容を読んで、地域ごとのさまざまな特性について教授するアイデアが広がると感じています。たとえば、私が住む北海道では雪が降り始める時期には、日中に溶けた雪が夜間に凍結するブラックアイ

スパーンとなります。運動障害のある方では転倒のリスクが高まるため金属や硬質のゴムでできたスパイク付きの靴ですべらない工夫をすることもあります。室内では床タイルの溝にスパイクが引っかかって転倒リスクとなることもあります。雪国ならではの特徴ですが、講義をする教師が本テキストを基に考えを広げ、講義にさまざまな工夫ができるヒントが提示されています。紙面が限られるのもう1つだけ紹介すると、第9章の「入浴動作」では、入浴を脱衣場への移動から脱衣、浴室への移動、浴室での動作、脱衣場でのふき取り、着衣までを一連の入浴動作として解説をしており、実際に対象者を指導するプロセスに沿った学習が進められるように記載がされています。サイドノートにはメモ、ポイント、自分で調べる課題等、自主学習を促す工夫や、各章末にはStep upとして最新の知見も紹介されており、養成校の学生や臨床家の学び直しにも最良の一冊となっています。

〔 A4判 216頁 2,600円+税 〕
 中山書店 刊
 ☎ 03-3813-1100